

2016年11月15日

プレスリリース

日興アセットマネジメント株式会社

金融と情報技術の融合＝フィンテック関連企業に投資 「グローバル・フィンテック株式ファンド」

～ 生活を一変させるイノベーションとして注目、12月1日募集開始 ～

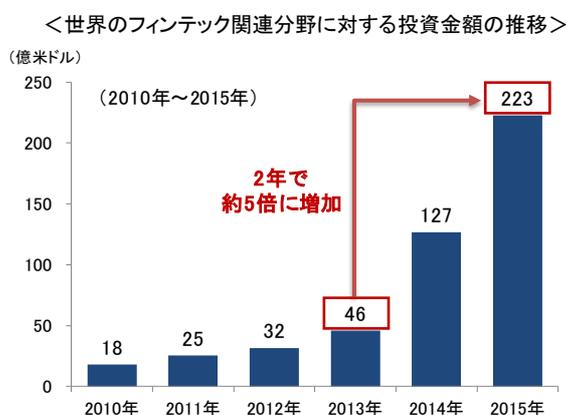
日興アセットマネジメント株式会社(以下、「日興アセット」)は、世界のフィンテック関連企業の株式を主な投資対象とする追加型投信「グローバル・フィンテック株式ファンド」を12月16日に設定、運用を開始する予定です。エイチ・エス証券株式会社、株式会社SBI証券、岡地証券株式会社、株式会社証券ジャパン、ならびに浜銀TT証券株式会社が12月1日から募集を行ないます。

「フィンテック」(FinTech=Finance+Technology)とは、最新の情報技術を活用した新たな金融サービスのことで、その利便性の高さから「私たちの生活を一変させるイノベーション」として注目されています。「グローバル・フィンテック株式ファンド」は、今後の成長が期待されるフィンテック関連企業の株式(預託証券を含む)を中心に投資を行ないます。個別銘柄の選定においては、イノベーションにフォーカスした調査に強みを持つ、米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシーの調査力を活用し、同社からの助言をもとに、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクがポートフォリオを構築します。

フィンテック関連企業は既存の金融機関では満たされなかった金融サービスに対するニーズを捉え、スマートフォンのアプリなどを通じた「電子決済」や「家計管理」、資産運用のアドバイスの提供にAI(人工知能)を活用する「ロボ・アドバイザー」サービスなど、新たな事業領域を次々に開拓しています。

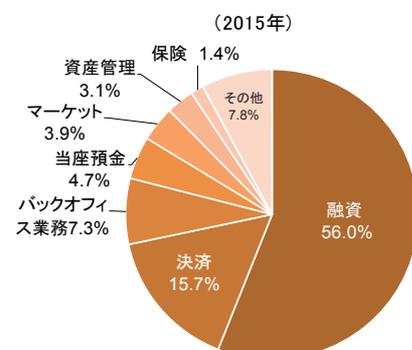
現在のフィンテック関連事業への投資の多くを米国が占めており、分野別では既存の銀行ビジネスの中核である融資や決済といった事業が中心となっています。こうしたことは、フィンテックが既存の金融機関を脅かす存在になりつつある一方で、既存の金融機関にとっても新たなビジネスチャンスになり得ることを示唆しています。

急増するフィンテック関連分野への投資



●総務省「情報通信白書(平成28年度版)」をもとに日興アセットマネジメントが作成

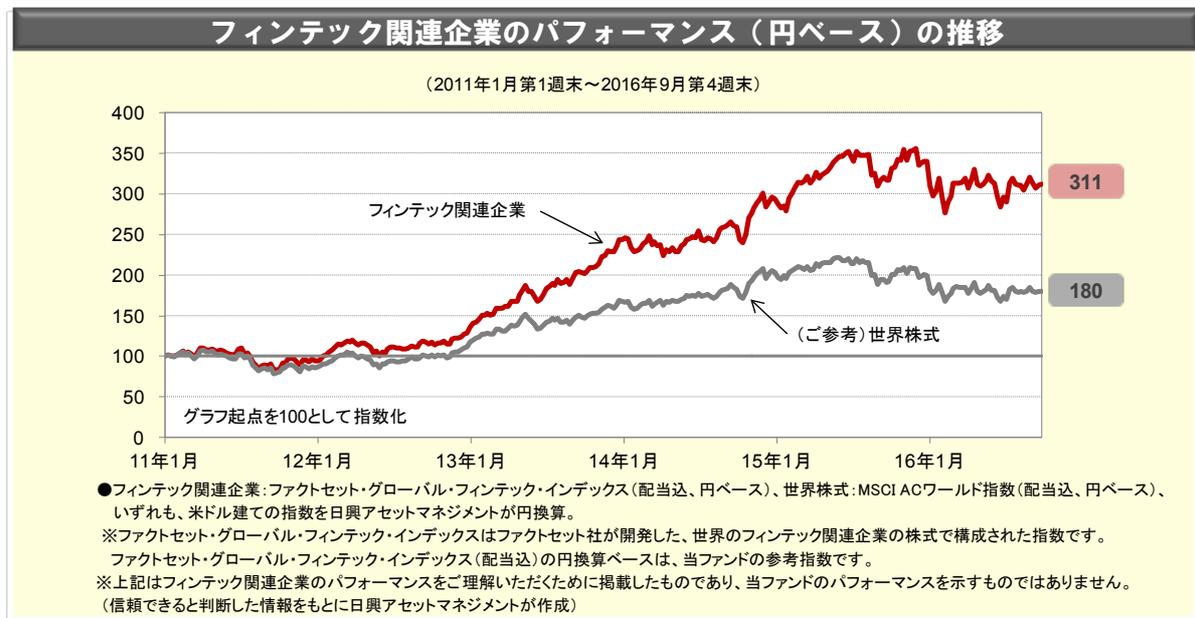
＜米国の分野別フィンテック投資金額の比率＞



●日本経済新聞社「フィンテック 金融維新へ」をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

フィンテック関連企業のパフォーマンスは、技術革新や各国の政策的な後押しなどを背景に、世界株式を上回って推移しています。今後も高い成長期待を背景として、中長期的なパフォーマンスは堅調に推移すると期待されます。



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットは今後も、投資環境の変化を迅速に捉えた質の高い商品の開発と優れた運用パフォーマンスのご提供に努めてまいります。

以上

■手数料等の概要

お客さまには以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

- 購入時手数料： 購入時手数料率は、3.78% (税抜 3.5%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
- 換金手数料： ありません。
- 信託財産留保額： ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

- 信託報酬： 純資産総額に対して年率 1.89% (税抜 1.75%) を乗じて得た額
- その他費用： 目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率 0.1% を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品賃料に 0.54 (税抜 0.5) を乗じて得た額)などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※当ファンドの手数料などの合計額については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■リスク情報

投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)のみなさまに帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】【有価証券の貸付などにおけるリスク】

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者のみなさまに「グローバル・フィンテック株式ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した資料です。
- 当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客さまご自身でご判断ください。

日興アセットマネジメントについて

日興アセットマネジメントは、日本そしてアジアを代表する資産運用会社です。株式、債券、オルタナティブ、マルチアセットなど多様な資産クラスを対象とするアクティブ運用や ETF(上場投資信託)を含むパッシブ運用など、革新的な投資ソリューションを提供しています。

約 60 年に及ぶ実績を誇り、30 以上の国・地域から集まる人材を世界 9 カ国・地域に擁して、200 名超の運用プロフェッショナルが約 16.9 兆円の資産を運用しています。グローバルな視点を活かし、お客様のニーズにお応えする様々な商品の開発を推進するとともに、優れた運用パフォーマンスの実現を常に追求しています。銀行などの金融機関、証券会社、生命保険・損害保険、ファイナンシャルアドバイザーなど、国内外の計 300 社超の販売ネットワークを通じ、個人投資家の皆様や年金基金や金融機関など世界中の機関投資家のお客様に対して幅広いサービスを提供しています。

詳しくは、日興アセットマネジメントの [HP](#) をご覧ください。

* 日興アセットマネジメント株式会社および連結子会社の役社員を含む。

** 日興アセットマネジメント株式会社および海外子会社の連結運用資産残高(投資助言を含む)の 2016 年 6 月末現在のデータ

日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 368 号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会